



## 大西脳神経外科病院だより 第30号

# ぶれいん

発行日：平成27年5月吉日

発行人：学術図書委員会

発行責任者：大西 英之

編集責任者：吉野 孝広

### 大西脳神経外科病院の理念

生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する。

### 大西脳神経外科病院の基本方針

生命と人権を尊厳した医療を実践する。

神経疾患の専門的・高度医療を実践する。

常に新しい医学の修得に励む。

救急医療は医療の原点と考え、24時間対応する。

地域の医療機関との連携を密にし、地域協力型の医療を志向する

### 「強い意志と優しさを持って」

理事長・院長 大西 英之



27名の新入職者をここに迎え平成27年度がスタートします。職員が多くなればなるほど良い医療を提供するために同じ認識を持つ必要があります。みなさん病院のロゴマークをご存知でしょうか。名札にもある三つの

の緑のマークです。これは大脳の左半分（中心溝と外側溝（シルビウス溝）により前頭葉、頭頂葉、側頭後頭葉の3つに分けそれをデザイン化したものです。それぞれの葉には意味があります。1つ目はサイエンス（科学）2つ目はアート（芸術）、3つ目がヒューマニティ（人間愛）です。

我々医学に携わる者は科学的根拠（エビデンス）に基づいて医療を提供しなく

てはなりません。また新しい根拠が勝手に出来上がる事はありませんので、日々の臨床データを積み重ね新しいエビデンスを作っていく事も責務です。これが1つ目の科学の心です。二つ目はアート、芸術という事ですが、医療には様々な技術を伴います。その1つ1つの技術を研鑽し自分のものにし、それを芸術的なレベルまで達するよう努力しましょうという目標を表しています。

最後はヒューマニティ、人間愛です。我々は病気を対象として医療をしていますが、それ以前に人間を対象として仕事をしています。疾患の治療を優先するあまりその人の生き立ちや環境を無視して方向性を決めたり、種々の訴えに対し治療なのだからと聞き流したりしては質の良い医療を提供できるわけがありません。この人に本当に必要な事は何かを人間愛を持って考える事が大切なので



す。ロゴにはこの3つの意味が込められています。

レイモンドチャンドラーの小説を映画化したフリップマーロー主演の「play back」という作品があります。その中のシーンで主人公が恋人に「あなたはとても強くてたくましい

人だけどうしてそんなに優しくなれるの」と聞きます。その時探偵役のフリップマーローは If I wasn't hard, I wouldn't be alive. 「強くなければ生きて行くことが出来ないし」 If I couldn't ever be gentle I wouldn't deserve to be alive. 「優しくなれば生きる価値が無いんだよ」と言っています。

みなさんこれからいろいろな苦勞をして挫折する事も



あると思います、それを乗り越えて自分を強く持って仕事に取り組んでいただきたいと思います。そして患者さんには優しく声を掛けて下さい。そして職場の同僚や後輩にも優しく声を掛け楽しい職場にして下さい。これは新入職員にだけいえる事では無く、現在働いている職員の方々にも改めて考えて欲しいと思います。

人生何度も何度も苦しい事に直面します。しかしそれを一つ一つ乗り越えなければ次のステップは展開しません。人生は楽しい物です。しかし、楽しい事だけ選んで苦しい事から逃げていては自分を高める事は出来ません。努力も必要です。今の新たな気持ちを持って共に頑張っていきましょう。

## 大西チームの一員として

薬剤部 部長 吉田善子

病院薬剤師の業務は、私が病院薬剤師として働き始めた頃は計数調剤が主業務でした。それから40年近くを経て、科学の進歩や長寿社会の到来、疾病の多様化とともに医療技術も高度化し、薬剤師の活動の場も調剤室だけではなく病棟等の広範囲になってきました。患者の薬物療法における有効性の担保と安全性の確保、特に副作用や薬害防止における薬剤師の責任は益々重大になってきています。患者に対して最適で安心・安全な医療を行うためにはチーム医療の一員として積極的に薬物療法に係わる必要があります。当院でも2012年4月から病棟専任薬剤師を各病棟に配置し、患者に投薬する前の薬物療法の有効性、安全性の向上に関する業務（病棟薬剤業



とてもいい笑顔で♡

務) 及び、以前より継続している投薬後の服薬指導(薬剤管理指導業務)を行っています。今年は、医師をはじめとする他の医療スタッフとより積極的にコミュニケーションをとり、専門分野を分担しながら自己研鑽し、薬剤師としての知識を提供することによりなお一層チーム医療の一員であると自覚し、患者にとって最良の医療を提供できればと思っています。

又、7月に当院主催の「第18回 日本臨床脳神経外科学会」が神戸で開催されます。院内スタッフ全員が一致団結して絶対に成功させなければなりません。我々薬剤師も微力ではありますが大西チームの一員として協力させて頂こうと思っています。



院内研究発表会にて

## 肩の力を抜いて

副院長兼統括看護部長 黒木みちる



この4月より副院長兼統括看護部長に就任しました。3月までは、再就職した公立病院に28年間勤務し、その間に5か所の病院を経験しました。

がん専門病院、三次救命センター、総合病院とそれぞれの政策医療の課題に向けて多くの職種の方と協働し取り組み、様々な経験をさせていただきました。

脳神経外科は卒後就職した神戸中央市民病院や公立病院の脳神経外科病棟オープン時に経験があるだけですので、今、朝のカンファレンスから最新の治療について学んでいるところです。嬉しいことに同期に看護師が12名入職しました。これから少ししんどい時期がやってきますが、みなさまのご支援をいただき、看護の素晴らしさを語り合えるように共に成長していきたいと思っています。社会人や新しい環境に対応する時にレジリエンス（逆境力・回復力）が必要だといわれています。肩の力を抜いてポジティブに取り組んでいきたいと思っています。

## その人らしく働き続けられる職場を目指して

看護部長 上原 かおる

1年が過ぎるのは早いもので、梅から桃、そして桜へと移り四月には新入職員を迎えました。昨年は、病院機能評価受審に向けて取り組み無事に更新を終えることができました。その安堵感に浸れたのも束の間、今年7月に開催される臨床脳神経外科学会の主催病院としての活動が本格的に始まりました。加えて、10月には院長が会長を務めるネパールでの脳神経外科学会も開催されるため、今年も忙しい年になりそうです。

2013年6月に新棟オープン後、脳腫瘍・頭蓋底外科（南館4階病棟）、脳卒中（南館3階病棟）、脊椎・脊髄（北館2階病棟）のセンター化を目指し、まだ完全ではありませんがそれぞれの病棟の専門性を意識した病棟運営を行っています。今後は、各分野の専門性を深めるための活動を積極的に行っていこうと考えています。

昨年の手術件数は800件を超し、1日5件の手術が実施されることもしばしばありました。それに伴い、手術室および病棟の円滑な運営、且つ、術中・術後管理におけるより質の高い看護が求められるようになりまし



院内研究発表会にて



た。今年は、急性期の脳神経外科専門病院の医療を担う専門職の一員としてその役割が果たせるよう、教育体制の充実を重要課題として、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師をリソースに取り組んで行こうと考えています。また、ここ数年来、人材確保については最重要課題として取り組んで参りました。患者さまにとっても職員にとっても安心・安全な医療を提供するため、病院経営の安定化を図るためには看護師確保が必要です。子育て支援や多様な勤務形態を取り入れ、産休・育休後復帰して働き続ける職員も増えてきました。しかし、それを支えてくれている職員への負担や希望する勤務形態が十分満たされないなど課題が山積しています。4月から新入職員を迎え改めてその対策を検討しています。職員ひとりひとりがやりがいを感じ、生き生きとその人らしく働き続けられる職場を目指し、改善に取り組んでいこうと考えています。

今後とも看護部をよろしく願いいたします。

## Our fellow♥ came from Nepal



★ ネパールから研修医として来日して1年が過ぎたグルン先生とシグデル先生お二人の今後の目標などについて聞いてみました。



### Plan for 2015

**Dr. Gurung Pritam**

It's already been 15 months since I joined Ohnishi Neurological Center (Akashi, Japan). It is wonderful to be a part of Ohnishi Neurological Center. I have been able to experience so many new things in this short period not only at professional level but also at personal level. The culture of Japan, humble and kind nature of people around me has always made me feel comfortable. I feel that I am truly blessed as I am getting to learn new methods and techniques in Neurosurgery from some of the world class neurosurgeons in Japan.

I had come to Japan with a burning desire to become one of the top neurosurgeons in Nepal. Ohnishi Neurological Center is providing me a platform to fulfill my desire and I am really thankful to it.

In order to achieve success in my path I have planned following things for 2015:

① Participate in ACNS educational course (10<sup>th</sup> to 12<sup>th</sup> Feb. 2015) in Nepal.

② Learn basic skills in endovascular surgery including mechanical thrombectomy for acute revascularization.

③ Present my research work in upcoming Annual meeting of Japan neurosurgical society in October 15, Sapporo.

④ Accomplish research work on evaluation of free radical in the carotid plaque using d-ROMs test.

⑤ Participate in Annual congress of Japan Association of Neurosurgical Clinics on July 18, 19 in Kobe.

⑥ Participate in Nepal-Japan Friendship neurosurgical conference which is going to be held on October 30, 31 in Nepal and present a paper in NJNC.

⑦ Focus on spinal and endoscopic surgery.

⑧ Write and publish at least 2 papers in international and national journals.

Nepal folk dance



大西脳神経外科病院の素晴らしい脳外科医から脳外科のメソッドや技術を学ぶことに本当に感謝しています。今年は日本脳神経外科学会総会で今取り組んでいる研究について発表すること、d-ROMsテストを用いた頸動脈プラーク内のフリーラジカル測定を完成させること、そして国内外誌問わず論文を数本書くことを目標に掲げています。



## The Beginning Sigdel Surakshya

The journey for me has started right there at that particular moment from the summit to the sea. Indeed my journey from Himalaya to the island country has always been unique on its way. So far in everyday when I meet new people anywhere I fight with these questions? How do you survive here? How about the food? Do you miss mountains? Yes I do, I always do. I miss those mountains I grew up with, those beautiful piece of nature that smiled at me wherever I was going almost everywhere every time.

I left home in search of my own dreams some old, some newly formed on my own terms, to the completely new world. Like `Small eyes and Big Dreams` have heard my mom always saying that perhaps was true in my case. Somehow now after more than one year in Japan makes me feel like the clock counts so fast still struggling with my dreams and giving my best in its own ways. Meeting new people everyday learning new thing every day made me a new person. So many obstacles on the way, before long I hope all the problems will be solved slowly with the help of time.

My life from Ohnishi Neurological Centre has been very special. A small family living together under a same roof made me forgets my home, to be with people made me understand value of so many things. Nevertheless my Journey is still a long way to go. To be a successful doctor had always been my motivation in life. Those beautiful white blossoms and color changing leaves

世界の屋根から海の国へ  
大西脳神経外科病院は遠く離れた自国に自分の存在を証明するための出発地点のような場所です。新しいことや困難な事はたくさんありますが、七転び八起きの精神で夢に向かって頑張ります。いつも愛のあるサポートをしてくださる皆様に感謝しております。これからも宜しくお願ひ致します。

always helped me to be myself with my own potentials and strength. I certainly am a better person now and my goal in my life would be to bring the best of me and to the best of humanity. A goal not only to get a degree and publish papers but it is also about discovering me, understanding the capabilities, learning to have patience, persistent fighting back and not giving up. `The greatest glory is not in never falling but rising every time we fall` like in Japanese 七転び八起き I will always try my best to stand from each fall and survive and represent myself to this world and let this know yes I dare to fall and fight back.

Last but not the least, thank you all the people who I meet throughout my journey for being the part and helping be in every steps so far, and looking forward to get all kinds of support and help me to be more stronger and better every day.



転んでもまた起き上れば前に進める♡頑張れ!!

## ひつじ年に思う事

事務部長 藤井 健



「年男」の年を迎えて、何回目になるのか数えるまでもないと思いながらも、生まれた年はカウントしないそうなので4回目ということと、順調にいけば次回は還暦の年ということ意識してみました。子供が成人するまでは元気に、と思う一方、明日どこか次の瞬間に自分が無事かどうかなど何の保証もないという思いが同居しています。

転じて病院のこれからを考えますと、12年後の2027年には、既に団塊の世代が75歳以上を迎えており、超少子高齢社会の真っ只中にあります。若年層が減り、高齢者層の増え続ける2025年までと、若年層、高齢者層共に減少していくそれ以降での病院運営の中身は自ずと転換を余儀なくされます。その時現場と経営の中心になるのは、今30~40歳代の職員です。その人たちが人口減少という厳しい潮流の中で、進むべき進路を誤らずに病院の舵取りを行う力を育む取り組みは、今を任されている私達世代の重要な責務です。

ところで今年は7月の臨床脳神経外科学

会と、10月のネパール日本脳神経外科学会の2つの学会長を大西院長が務められます。特に7月の学会は、全国より1,500名を越える参加者をお迎えする大規模な学会であり、参加者が脳神経外科領域における新しい知識と技術に触れ、相互に交流を深めて、“参加して良かった”と、多くの方々にご満足いただける学会にすることが、大西院長の下、ホスト役である私達職員の果たすべき使命です。もちろ



ん、学会準備段階から当日の運営、演者としての発表の機会、そして他院での取り組み等を通じて、私達が得られるであろうものも測り知れません。これまでに大西院長が会長を務められた'09年の日本脳神経外科学会近畿地方会や、ハワイ島での'13年のPan-pacific Neurosurgery



Congressでの経験を生かし、今年2つの学会も必ずや成功させましょう。

羊は争いを嫌い、群れて行動する穏やかな動物と言われ、無力な存在として表現されることも多いようですが、一頭一頭は無力でも、個々が力を合わせて相乗効果を生み、それが大きな力となって事を成す例えとしても使われます。職員の団結が大切なことは今年に限ったことではありませんが、それを内外に示す格好の機会が今年2つもあるということですので、個々の持てる力を遺憾なく発揮し、学会のみならず様々な課題に取り組みましょう。



# 平成26年 院内研究発表会

毎年恒例の院内研究発表会。平成26年は各部署から最高の32演題が発表されその研究成果が発表されました。今年の「院長賞」にはIT室、木原 克之氏の演題が選ばれました。

## コンピュータシステムの 院内開発について

～ 日報システムの開発と効果 ～

医療法人社団英明会  
大西脳神経外科病院  
木原 克之、久我 純弘、上原 かつる、龍原 健司、三宅 直樹、中田 舞司



実質2か月の開発工数であった。導入効果としては、全部門合計で1か月、5.6日の時間短縮となり、HISデータと連動させる事で入力ミスが減った。

【4.考察】1か月あたり5.6日の削減時間は、約7か月後には開発工数の40日を上回る。また、HISを基に集計する仕組みであり、日報がHISの入力確認用の

資料としても活用できる。

### 【5.結語】

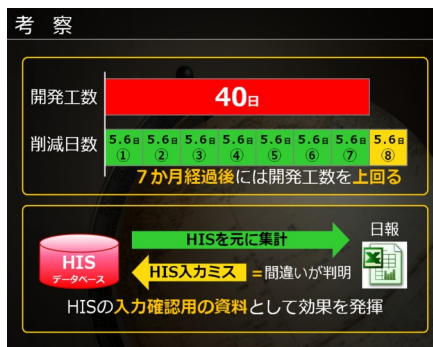
日報作成に要す時間の削減と正確な集計が可能となり質の向上が図れた。

今後、各部署には、削減時間を戦略的に活用していただける事を期待し、その支援ならびに開発を進めてまいります。これらは、院内でシステム開発する事の大きな利点です。

【1.目的】HIS付属の日報は、当院オリジナルのレイアウトで運用していた。しかし、HISとのデータ連携がなく、手作業になり作成に時間を要した。そこで、日報システムの開発を行った。

【2.対象・方法】医事課、看護部、医局をシステム化開発ツール、言語：VisualStudio2010Express、データベース：Oracle10gExpressR2、帳票印刷：Excel2007、いずれも無償ソフトおよび導入済みソフトを使用した。入力項目は分類分けを行い、その分類毎にデータを取得できる仕組みにした。また、当データベースからベンダー製データベースに対し直接アクセス出来るようにした。

【3.結果】2013年11月に着手し、8か月の期間を要したが、ITサポート業務と兼務での開発であり、



## 平成27年度新入職員歓迎会 and 職員研修



明石キャッスルプラザホテルでの歓迎会

新入職員27名を迎え開院15年の今年、開設当初からのスタッフは少なくなっていますが、ここにいる新入職員が共に大西脳神経外科病院を支える仲間として5年後、10年後の新入職員を迎えられるように、研鑽し高め合えることを願います。

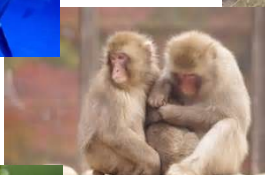
新しい職場で緊張もあり慣れない中、苦しい事もあると思いますが、肩の力を抜いて、大きく息を吐いて、患者様の笑顔を活かして頑張りましょう。

## 「ことば」

中條 道裕

地球上の生物で言葉を操ることが出来るのは人類だけです。哺乳類の中で猿の脳は人間とほぼ同じレベルだと言われています。従って言葉を理解する事はある程度できます。しかし話す事は出来ません、なぜならサルの声帯が言葉を発するようにはなっていないからです。イルカは言葉を理解すると言われています。イルカの脳の皺は人間のそれより多いのですが大脳皮質が薄い事と神経細胞の密度が小さいので話す事は出来ません。イルカやクジラは超音波でコミュニケーションをとっています。

言葉を持たない動物たちでも仕種、表情、鳴き声、匂い、又熊が立ち上がって立ち木に爪痕を付けて縄張りを表現するあと痕跡等でコミュニケーションをとります。犬、サル、馬、オオカミ、象、シャチ、チンパンジーなどの類人猿がこの中に含まれます。カラスやプレイリードッグは頭が小さい割にはその働きがよく鳴き声で情報を交換しているという実験結果が出ています。



昆虫の世界ではミツバチが体を揺すりながら横8文字の回転運動をすることで餌である蜜のあるところを伝えます。身体の揺すり方でその方向を表し横8文字の大きさと目標までの距離を教えます。羽音で表すとも言われていましたがその説は最近聞こえなくなりました。

## 人間社会は…？

日本語の特徴は1人称の多さに有ります、例えば「自分」を表すのに「わたし、わたくし、あたし、僕、自分、我、吾輩、おいら、わし」などです。また「寝癖、肩こり、お疲れ様、お帰りなさい、ただいま、いただきます、ご馳走様、もったいない」等は英語にはない表現です。各国の話を90%程度理解するために必要な言語はフランス語で2000語、英語で3000語、ドイツ語では5000語、これが日本語となると100000語が必要だと言われています。日本の



皆様は大変ですね、お疲れ様と言いたいところです。「ありがとう」の一言でもその人の持つ雰囲気、ニュアンス、イントネーション、言葉の強さなどで受け取る人の感じが異なります。私たちはこれらを使い分けているのです。

先人たちが作り上げてきた綺麗な日本語も今や一部の若者たちにより壊されています。美しい日本語を大切に使い後の世の人たちにも美しいまま残し伝えて行きたいものです。

## 編集後記

三寒四温もいつの頃からか春らしく陽気な日差しにとって代わり、時には初夏の陽気をうかがわせるこのごろです。南館5階から行くことの出来る北館屋上庭園には色とりどりの花が咲き誇っています。皆さんもお昼休みに、春の空気と綺麗な花で身も心もリフレッシュしてはいかがですか。

さて本院が開院して15年、「ぶれいん」も第30号となりました。今回

の「ぶれいん」の見どころはネパールから研修医として来日されているグルン先生とシグデル先生のページです。世界で唯一長方形でない国旗に描かれた月と太陽をバックに華やかな感じでデザインしてみました。皆さんからもご意見ご感想があれば作成の参考にさせていただきます。今後とも「ぶれいん」をよろしく願います (吉野)

